

関係人口の農林漁業及び農山漁村への関わり

【都市から地方への動き】

令和3年3月18日

国土交通省 国土政策局 総合計画課

Ⅰ．関係人口の概要

1. 三大都市圏居住者の日常生活圏、通勤圏以外の地域との関わりの状況 国土交通省

- 三大都市圏の18歳以上の居住者（約4,678万人）のうち、約18%（約861万人）が関係人口として、日常生活圏、通勤圏等以外の特定の地域を訪問している。【新型コロナウイルス感染症拡大直前】

推計の概要

○三大都市圏に居住する約7.5万人に対してインターネットアンケートを実施（18歳以上の男女、74,579人が有効回答）
○調査対象地域の18歳以上の人口（約4,678万人）に基づき、男女比率及び年齢構成（4年齢区分）を踏まえて母集団拡大推計を実施

用語の定義

【関係人口（訪問系）】

日常生活圏、通勤圏、業務上の支社・営業所訪問等以外に定期的・継続的に関わりがある地域があり、かつ、訪問している人（地縁・血縁的な訪問者を除く）

<大分類> 地域における過ごし方に応じて分類

【直接寄与型】

産業の創出、商店街の空き店舗有効活用の活動、朝市・マルシェへの出店活動、ボランティア、地域資源・まちなみの保全活動、まちおこし・むらおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営、又は協力・支援等

【就労型（直接関与）】

地元の企業・事業所での労働（地域における副業）、農林漁業への就業、農林漁業者へのサポート（援農等）

【就労型（テレワーク等）】

本業として普段行っている業務や仕事（テレワークなど）、訪問地域外の業務や仕事（テレワーク/副業など）

【参加・交流型】

地域の人との交流やイベント、体験プログラム等に参加

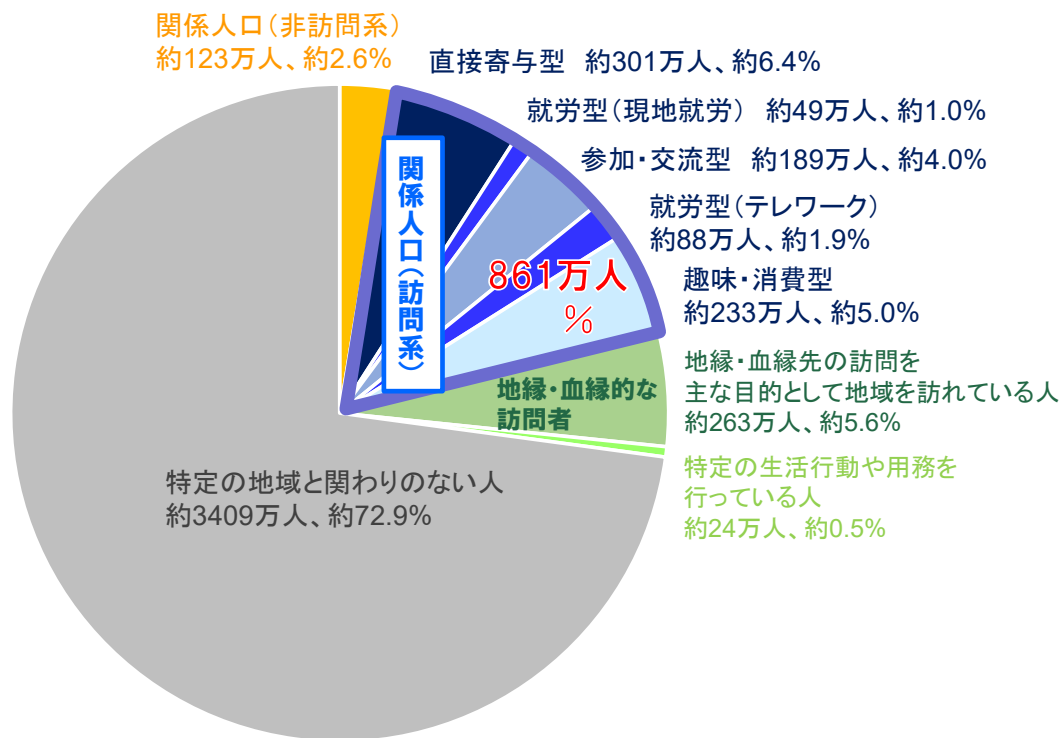
【趣味・消費型】

地縁・血縁先以外で、地域での飲食や趣味活動等を実施（他の活動をしていない）

【関係人口（非訪問系）】

ふるさと納税、クラウドファンディング、地場産品等購入、特定の地域の仕事の請け負い、情報発信、オンライン活用

三大都市圏居住者の日常生活圏、通勤圏以外の地域との関わりの状況



※ 四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある

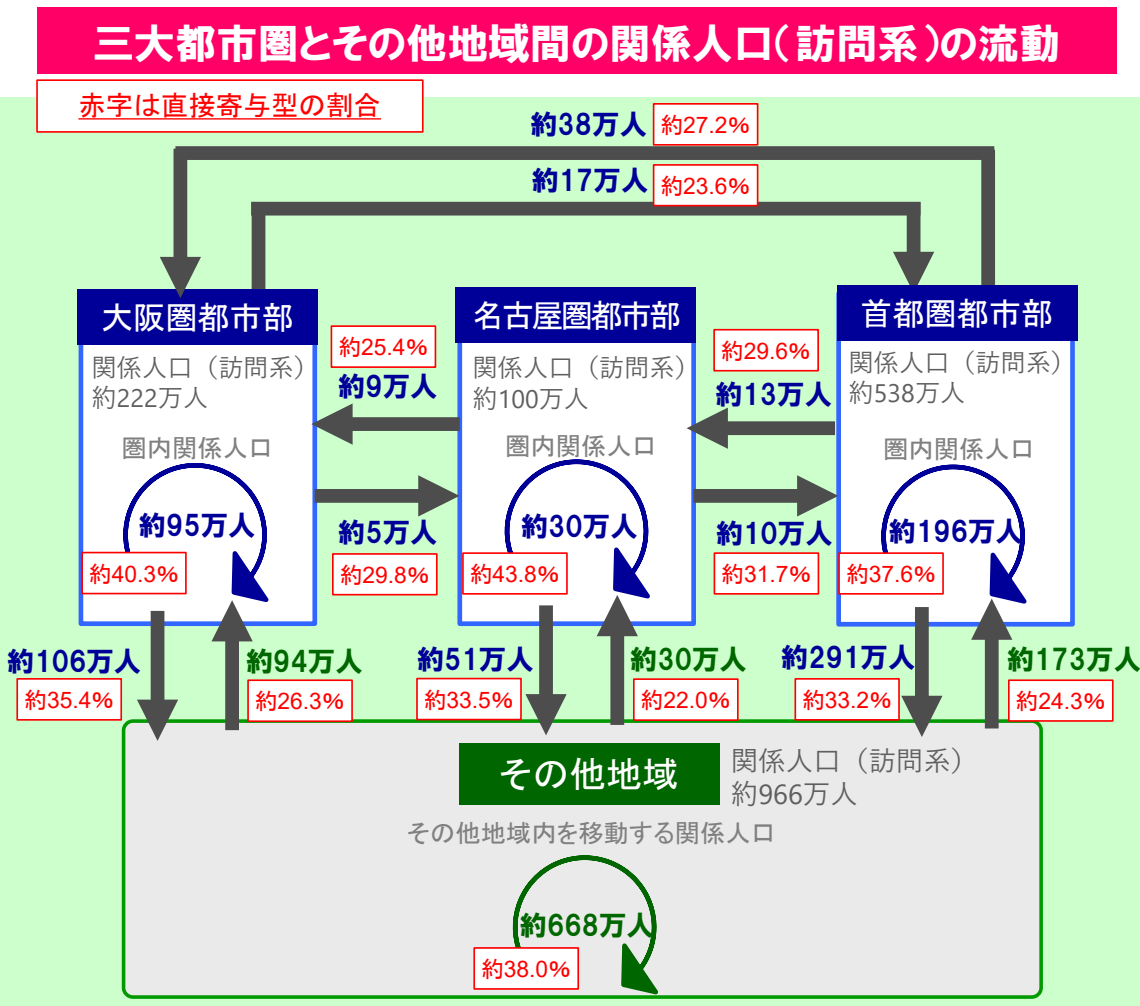
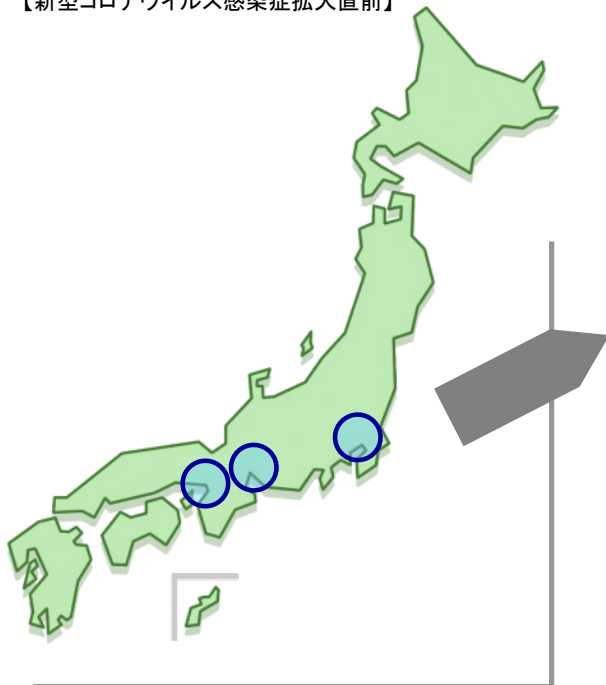
2. 関係人口(訪問系)の対流の状況

— 関係人口(訪問系)の流動(人数ベース) —

全国の関係人口(訪問系)は約1,827万人と推計

- 地方部(その他地域)から三大都市圏への流動よりも、三大都市圏から地方部(その他地域)への流動の方が大きい。
- 同一圏内に関わる関係人口及び三大都市圏から地方部(その他地域)に関わる関係人口については、直接寄与型の割合が大きくなっている。

【新型コロナウイルス感染症拡大直前】



※ 四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある

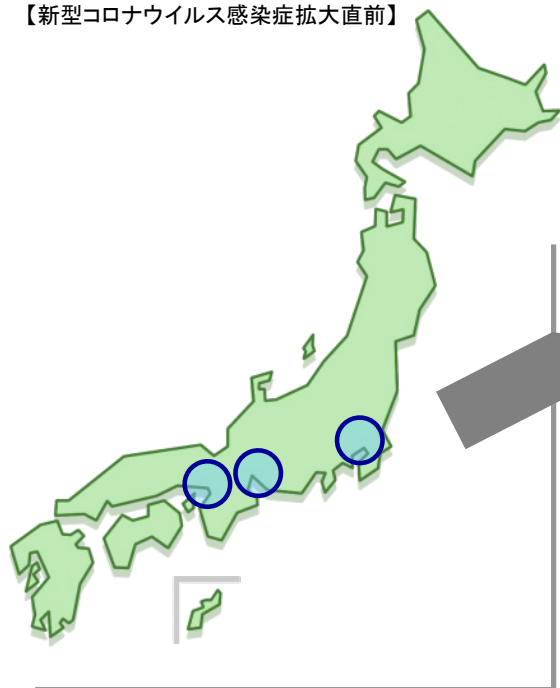
3. 関係人口(訪問系)の対流の状況

ー 関係人口(訪問系)の流動(訪問地域数ベース) ー

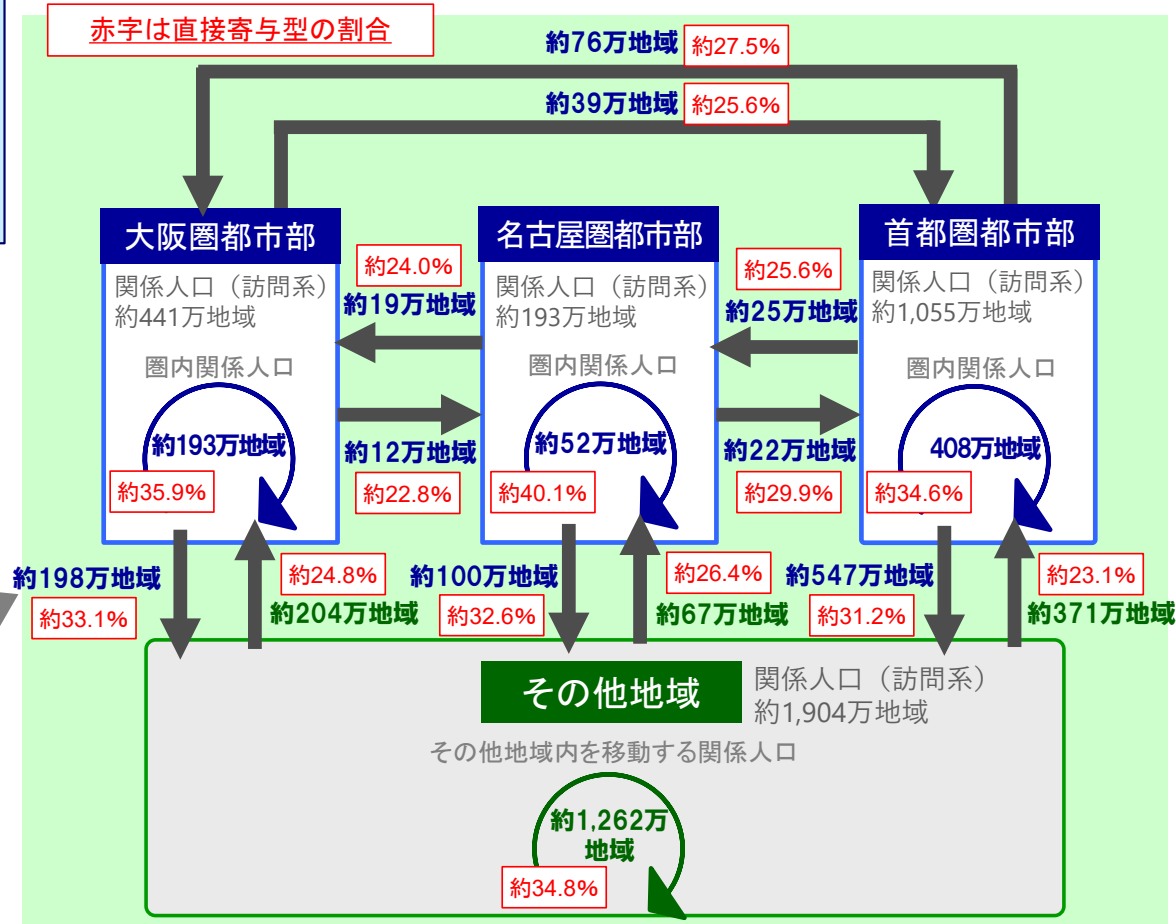
※ 人数ベースと同様の傾向

- 地方部（その他地域）から三大都市圏への流動よりも、三大都市圏から地方部（その他地域）への流動の方が大きい。
- 同一圏内に関わる関係人口及び三大都市圏から地方部（その他地域）に関わる関係人口については、直接寄与型の割合が大きくなっている。

【新型コロナウイルス感染症拡大直前】



三大都市圏とその他地域間の関係人口(訪問系)の流動



※ 地域数は延べ数

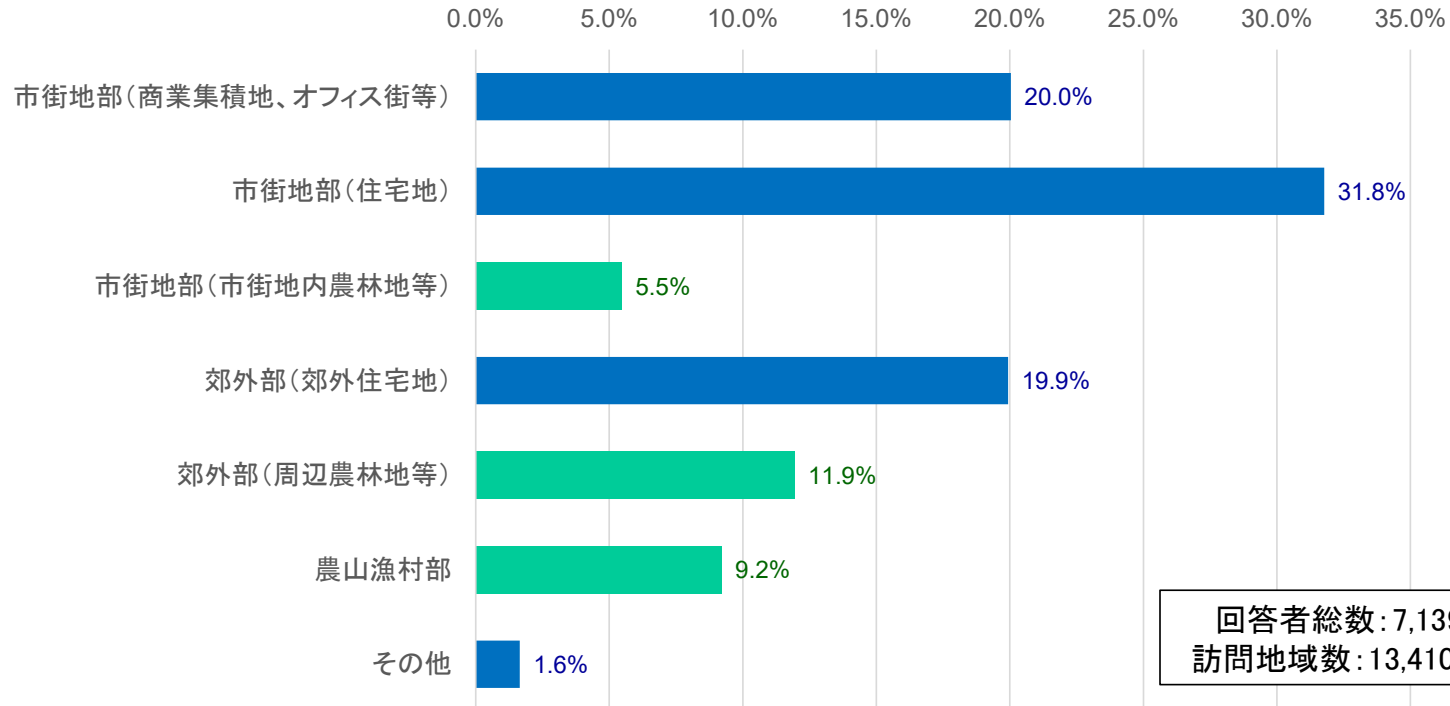
※ 四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある

(出典) 「地域との関わりについてのアンケート」 (国土交通省、令和2年9月実施)、訪問地域数ベース

- 三大都市圏に居住し、その他地域に関わる関係人口（訪問系）は、約7割が農林地がメインではない市街地部等を訪問しており、地方部への関わりであっても市街地部への関わりの割合が大きいことが確認できる。
- 一方で、約2割半が農林地がある地域及び農山漁村部を訪問している。

■ 三大都市圏に居住し、その他地域に関わる関係人口（訪問系）

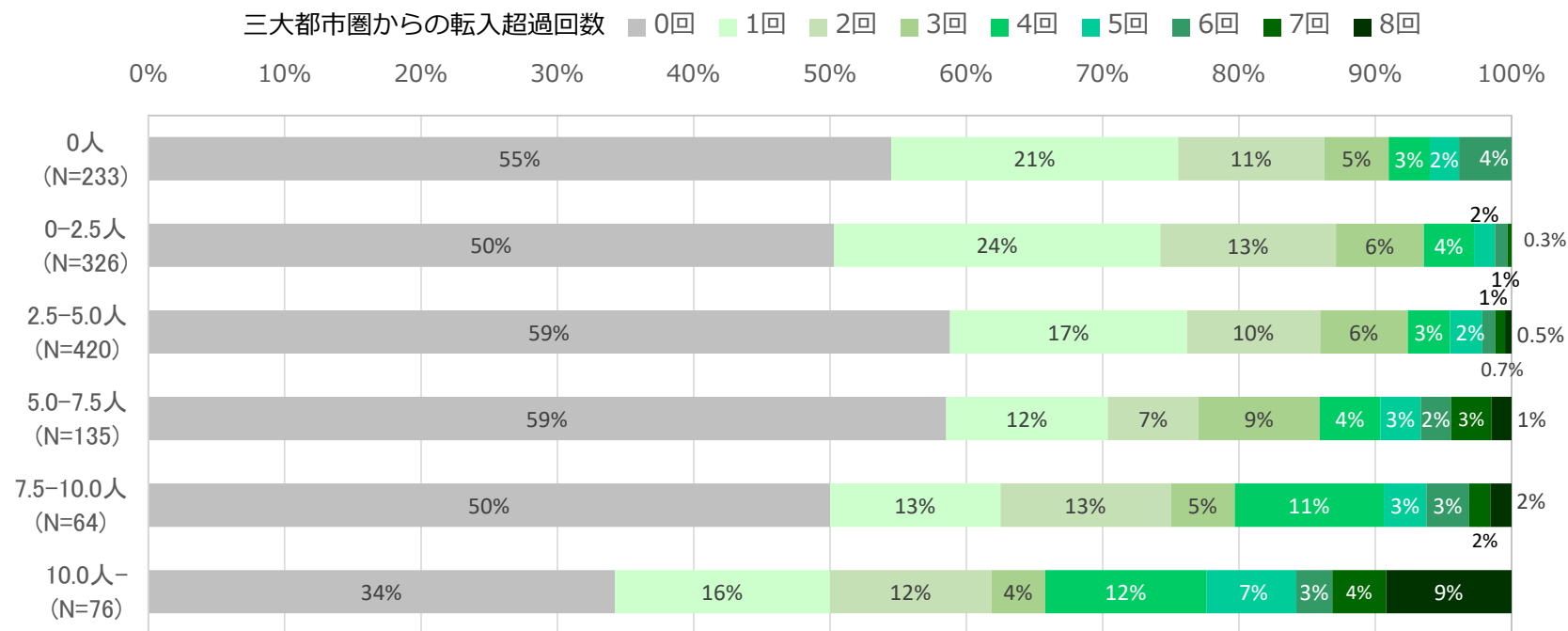
訪問先（地域区分）



（出典）「地域との関わりについてのアンケート」（国土交通省、令和2年9月実施）、訪問地域数ベース

- 人口1万人当たりの関係人口（訪問系）の人数が多い市区町村は、三大都市圏※からの転入超過回数が多いことを確認。※関係人口の実態把握の三大都市圏の定義とは異なる
- 関係人口（訪問系）の来訪が多い地域において、三大都市圏からの移住者が多いことについては、そのような地域では、外部の人を受け入れる環境が整っているからであると考えられる。

人口1万人当たりの関係人口（訪問系）の人数と三大都市圏からの転入超過回数



1万人当たりの関係人口（訪問系）
の人数(実測値)

注1：三大都市圏内の市区町村は含まない

注2：国勢調査（H27）人口を活用して、1万人あたり関係人口（訪問系）を集計

（出典）「地域との関わりについてのアンケート」（国土交通省、令和2年9月実施）、訪問地域数ベース
総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告（H24～H31）」

人口1万人当たりの関係人口(訪問系)の人数及び三大都市圏からの転入超過回数が多い市町村

転入超過回数

一万人当たりの関係人口(訪問系)の人数(実測値)

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回
5.0-7.5	岩手県 九戸村 宮城県 村田町 宮城県 山元町 石川県 羽咋市 山梨県 韮崎市 長野県 伊那市 長野県 大町市 長野県 立科町 長野県 阿南町 長野県 泰阜村 滋賀県 近江八幡市 島根県 奥出雲町 岡山県 真庭市 高知県 奈半利町 大分県 日田市 宮崎県 高千穂町	岩手県 釜石市 岩手県 西和賀町 福島県 南相馬市 長野県 木島平村 鳥取県 岩美町 鳥取県 三朝町 岡山県 奈義町 熊本県 高森町 大分県 玖珠町	北海道 鹿部町 北海道 せたな町 青森県 田舎館村 岩手県 遠野市 岩手県 葛巻町 岩手県 田野畑村 山形県 朝日町 福島県 国見町 広島県 北広島町 香川県 土庄町 熊本県 山都町 大分県 九重町	北海道 長万部町 石川県 輪島市 岡山県 吉備中央町 大分県 国東市 鹿児島県 宇検村 沖縄県 宜野座村	北海道 東川町 滋賀県 大津市 島根県 邑南町 鹿児島県 和泊町	北海道 倶知安町 静岡県 伊東市 大分県 竹田市	山口県 周防大島町 鹿児島県 屋久島町 沖縄県 本部町 沖縄県 久米島町	長野県 原村 鹿児島県 与論町
7.5-10.0	北海道 新冠町 青森県 東通村 岩手県 宮古市 宮城県 仙台市 石川県 能登町 福井県 高浜町 長野県 木曽町 滋賀県 竜王町	北海道 夕張市 宮城県 丸森町 宮城県 南三陸町 福島県 磐梯町 群馬県 川場村 静岡県 小山町 鳥取県 智頭町 沖縄県 那覇市	石川県 珠洲市 静岡県 河津町 鳥取県 若桜町	岩手県 陸前高田市 群馬県 嬬恋村 長野県 茅野市 長野県 富士見町 長野県 山ノ内町 静岡県 松崎町 島根県 西ノ島町	宮城県 女川町 長野県 信濃町	静岡県 東伊豆町 香川県 琴平町	沖縄県 宮古島市	滋賀県 草津市
10.0以上	北海道 留寿都村 岩手県 大船渡市 宮城県 七ヶ宿町 山形県 寒河江市 福島県 西会津町 福島県 猪苗代町 群馬県 片品村 福井県 美浜町 山梨県 身延町 長野県 小川村 和歌山県 高野町 和歌山県 白浜町	福島県 北塩原村 茨城県 大洗町 群馬県 草津町 富山県 舟橋村 山梨県 小菅村 長野県 阿智村 長野県 平谷村 岡山県 西粟倉村 沖縄県 座間味村	北海道 占冠村 群馬県 長野原町 長野県 南牧村	北海道 ニセコ町 長野県 長和町 長野県 野沢温泉村 静岡県 南伊豆町 香川県 小豆島町 熊本県 阿蘇市 熊本県 南阿蘇村 沖縄県 国頭村 沖縄県 与那国町	山梨県 早川町 山梨県 山中湖村 長野県 小谷村 島根県 海士町 鹿児島県 南種子町	長野県 売木村 沖縄県 石垣市	北海道 上士幌町 栃木県 那須町 新潟県 湯沢町	山梨県 北杜市 長野県 軽井沢町 長野県 白馬村 静岡県 熱海市 沖縄県 今帰仁村 沖縄県 恩納村 沖縄県 竹富町

注1：三大都市圏内の市区町村は含まない

注2：国勢調査（H27）人口を活用して、1万人あたり関係人口（訪問系）を集計

（出典）「地域との関わりについてのアンケート」（国土交通省、令和2年9月実施）、訪問地域数ベース

総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告（H24～H31）」

II. 農山漁村集落を訪問する関係人口 【三大都市圏に居住し、その他地域を訪問】

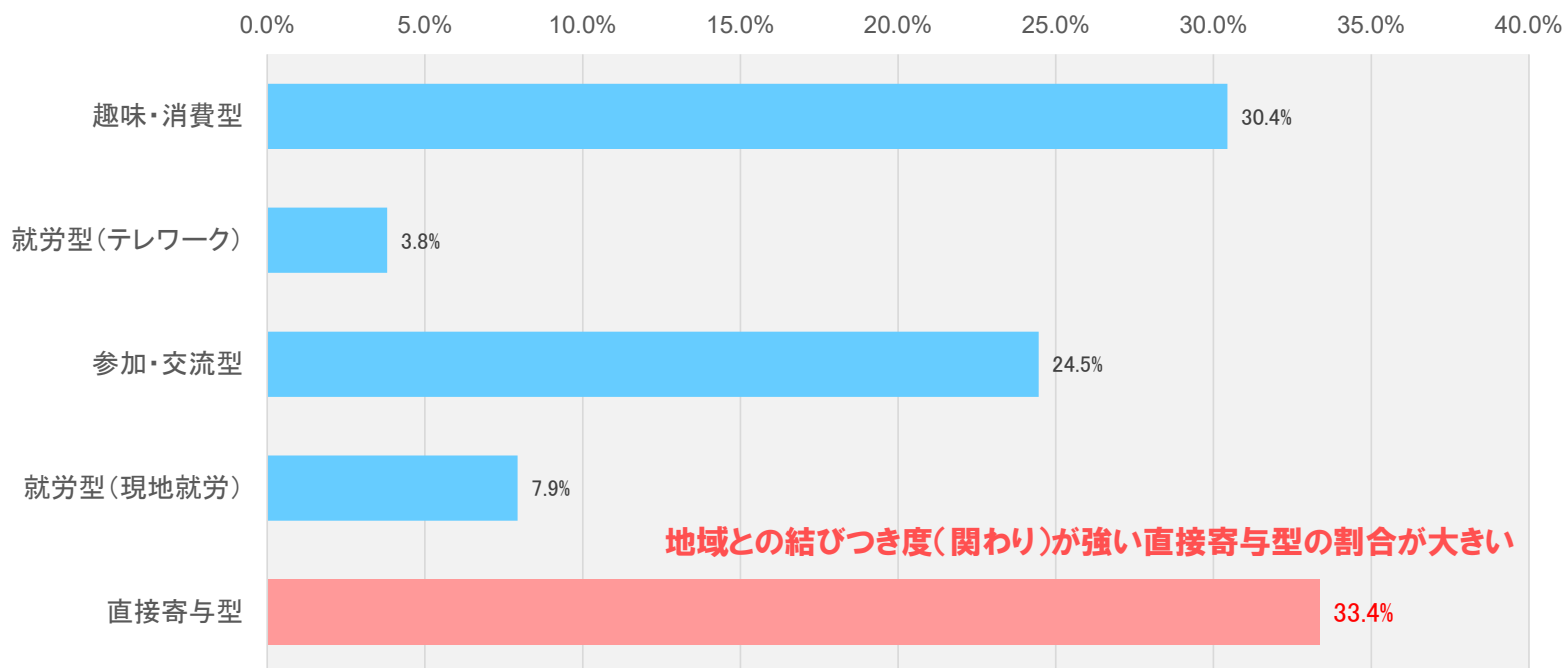
大分類】

- 三大都市圏に居住し、その他地域（地方部）の農山漁村に関わる関係人口については、直接寄与型の割合が約33%となっており、地域との結びつき度（関わり）が強いことを確認できる。

■ 三大都市圏に居住し、その他地域の農山漁村に関わる関係人口（訪問系）

農山漁村に関わる関係人口の大分類

回答者総数：709人
訪問地域数：1,235地域



(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和2年9月実施)、訪問地域数ベース

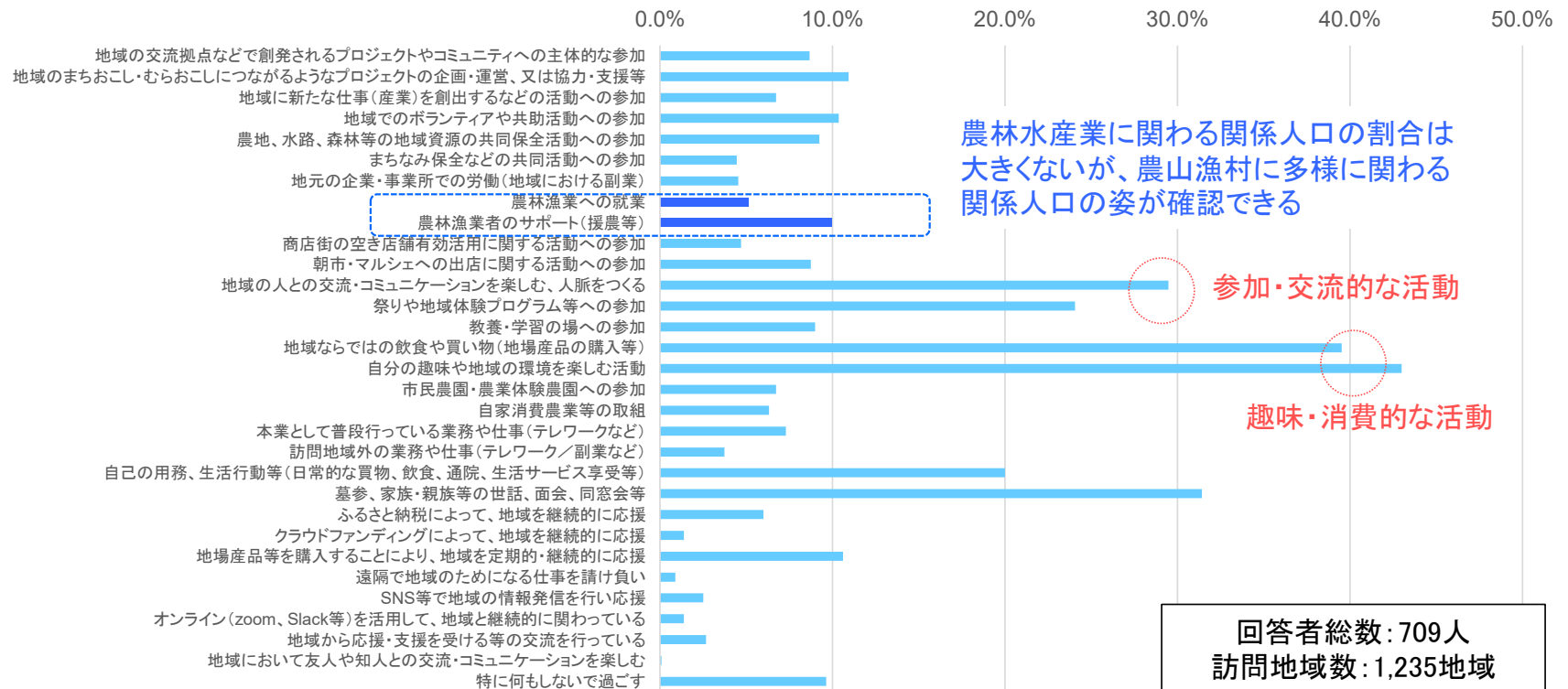
8. 三大都市圏に居住する関係人口の農山漁村への多様な関わり

【過ごし方】

- 三大都市圏に居住し、その他地域（地方部）の農山漁村に関わる関係人口については、趣味・消費的及び参加・交流的な活動等を行っている人の割合が大きく、約3割を占める直接寄与型であっても、それらを兼ねた活動を行っている」と推測できる。

■ 三大都市圏に居住し、その他地域の農山漁村に関わる関係人口（訪問系）

農山漁村に関わる関係人口の過ごし方

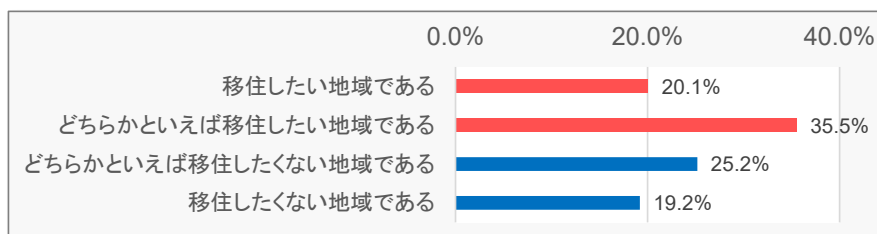


- 三大都市圏に居住し、その他地域の農山漁村に関わる関係人口（訪問系）の約55%は、関わり先を移住先として魅力的に感じていることを確認でき、自然環境や住環境を理由としている人の割合が大きい。

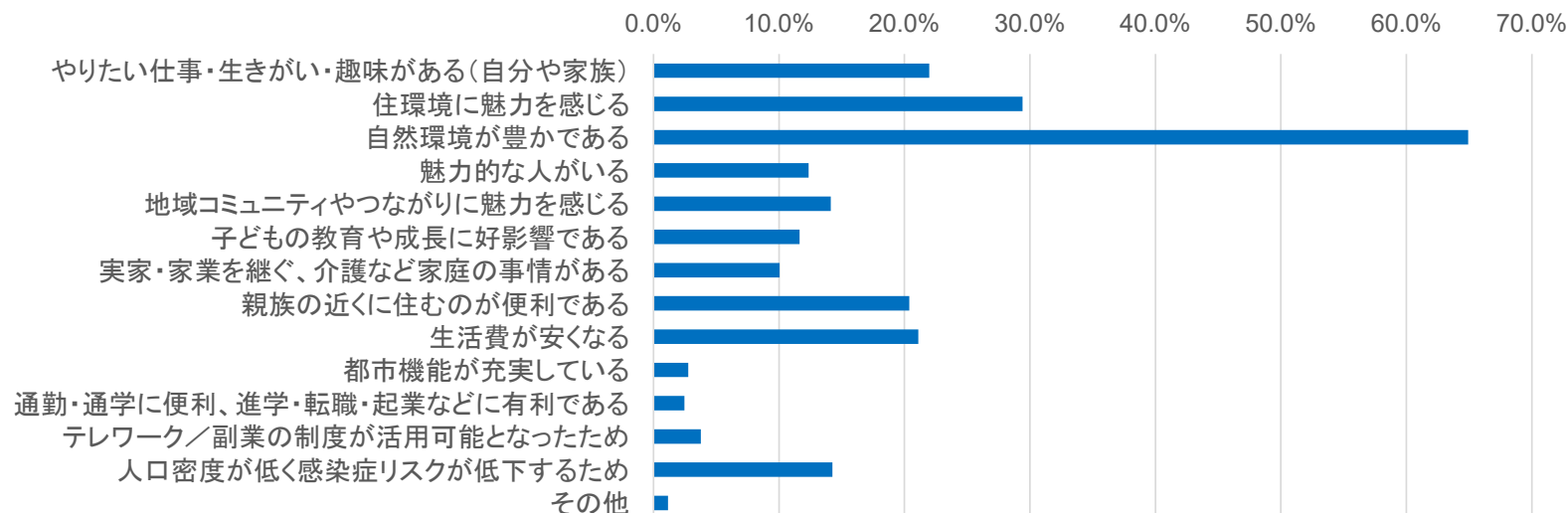
■ 三大都市圏に居住し、その他地域の農山漁村に関わる関係人口（訪問系）

農山漁村に関わる関係人口の関わり先への移住希望

回答者総数：709人
訪問地域数：1,235地域



「移住したい地域」又は「どちらかといえば移住したい地域」と回答した理由



（出典）「地域との関わりについてのアンケート」（国土交通省、令和2年9月実施）、訪問地域数ベース

Ⅲ．農業系関係人口の動向

【首都圏都市部に居住し、その他地域を訪問】

10. 分析の目的とサンプル抽出対象範囲

■ 首都圏都市部在住者の地方部における農林漁業への関わりを明らかにする

【理由】

発地と着地を固定することにより、より実態に即した傾向を分析する

サンプル抽出範囲

||

382人

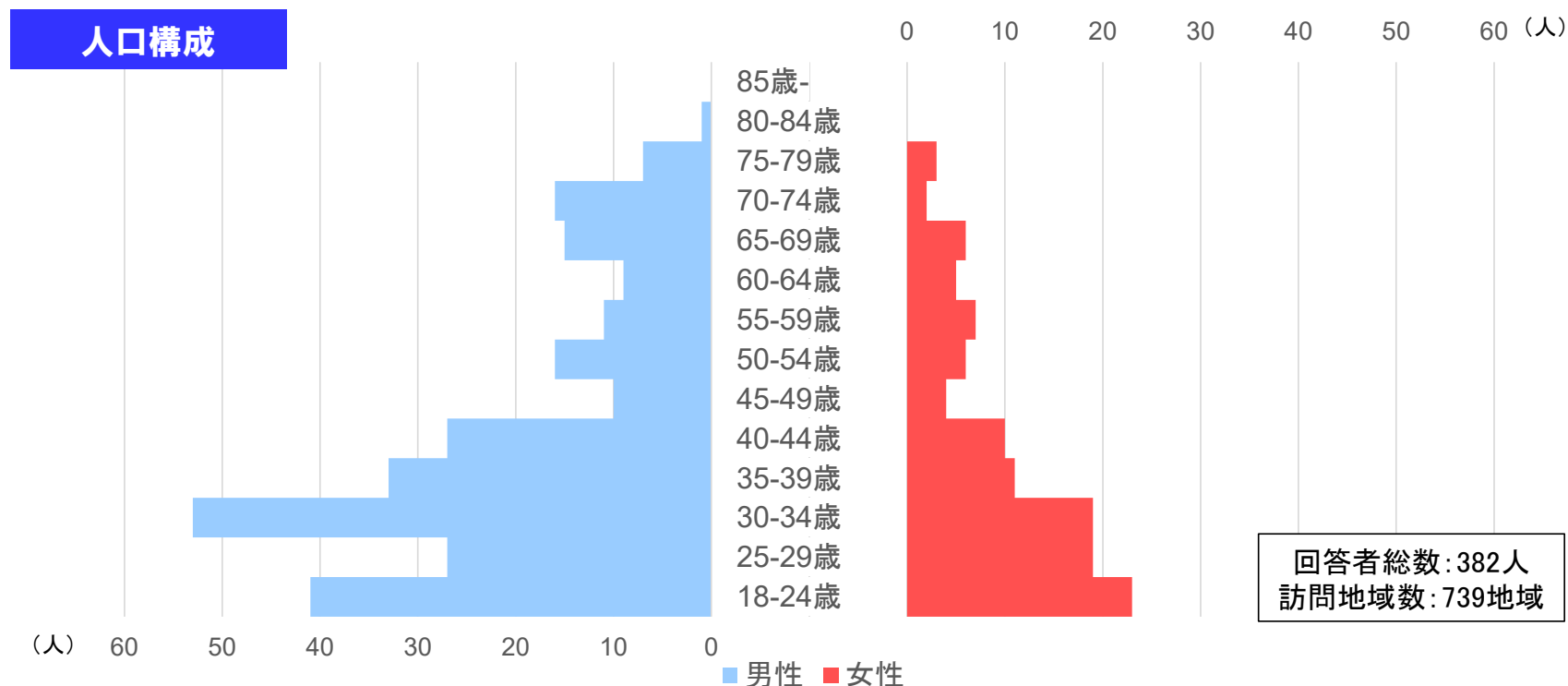
【拡大推計で約24万人】

※ 首都圏都市部に居住し、（三大都市圏を除く）その他地域を訪問している関係人口の約8%

農業系関係人口の人口構成

- 首都圏都市部に居住し、三大都市圏を除くその他地域において、農林水産業に関わる関係人口（訪問系）（以下、農業系関係人口（首都圏都市部居住）という）の人口構成は、男性及び若年層の割合が大きくなっている。
- また、男性では、65歳以上の人の割合が若干増加する傾向にある。

首都圏都市部に居住し、その他地域において農林水産業に関わる関係人口（訪問系）



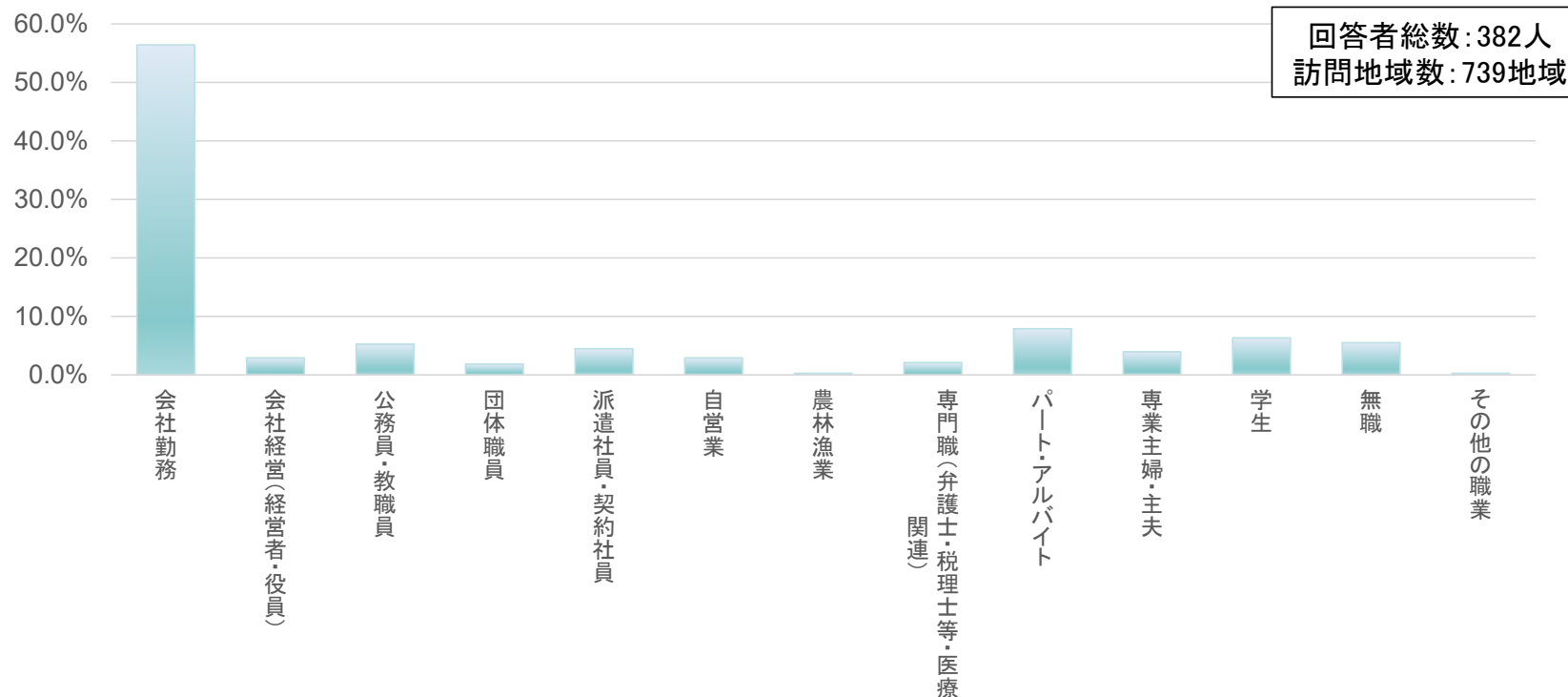
(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和2年9月実施)、人数ベース

農業系関係人口の職業

- 農業系関係人口（首都圏都市部居住）については、約6割弱が会社勤務となっている。
- その他については、パート・アルバイトが若干多いものの、少数でバラついていく。

首都圏都市部に居住し、その他地域において農林水産業に関わる関係人口（訪問系）

職業



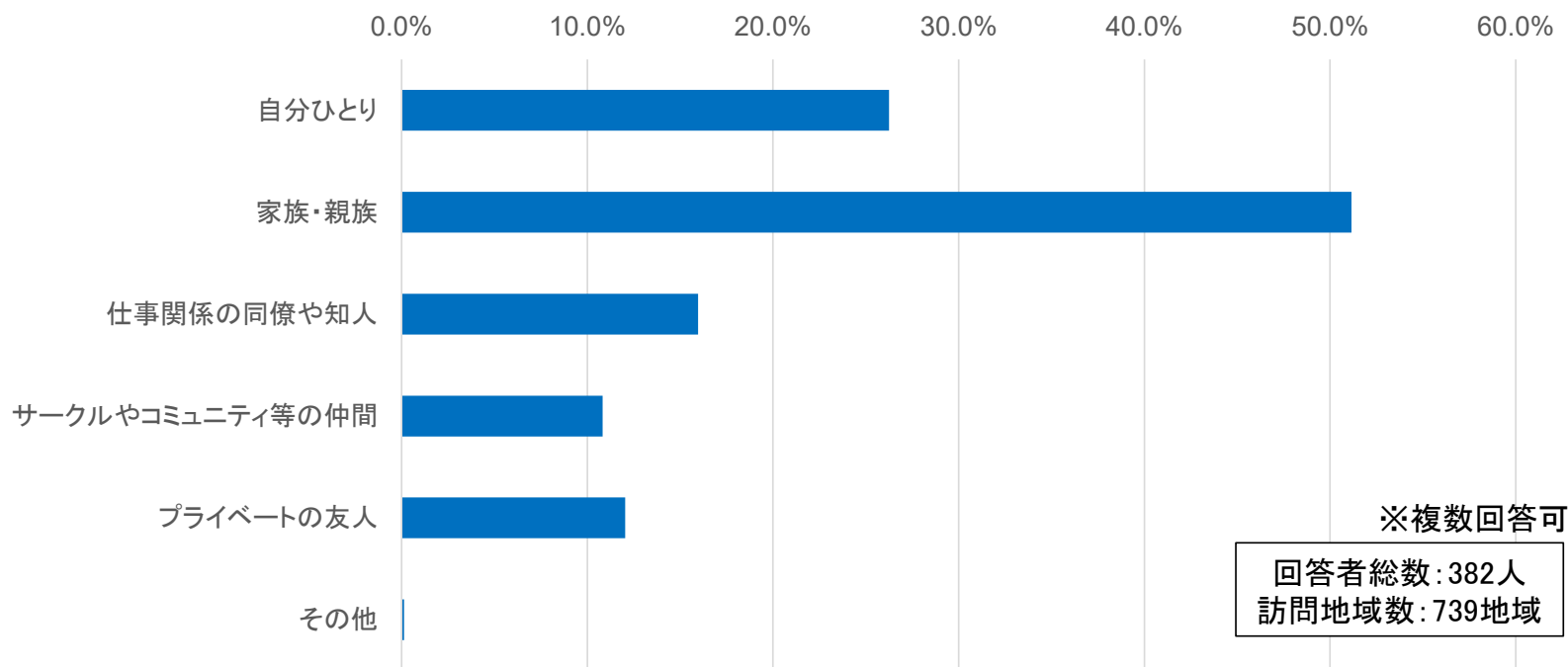
（出典）「地域との関わりについてのアンケート」（国土交通省、令和2年9月実施）、人数ベース

・農業系関係人口の地域を訪問する際の同行者

- 農業系関係人口（首都圏都市部居住）が地域を訪問する際の同行者は、家族・親族とする割合が過半を超えているとともに、仕事関係の同僚や友人等とする場合も一定数あり、自分一人と回答した人の割合は大きくない。
- 農業系関係人口（首都圏都市部居住）は、人が地域へ訪問するという観点において、大きなポテンシャルを持っている。

■ 首都圏都市部に居住し、その他地域において農林水産業に関わる関係人口（訪問系）

地域への同行者



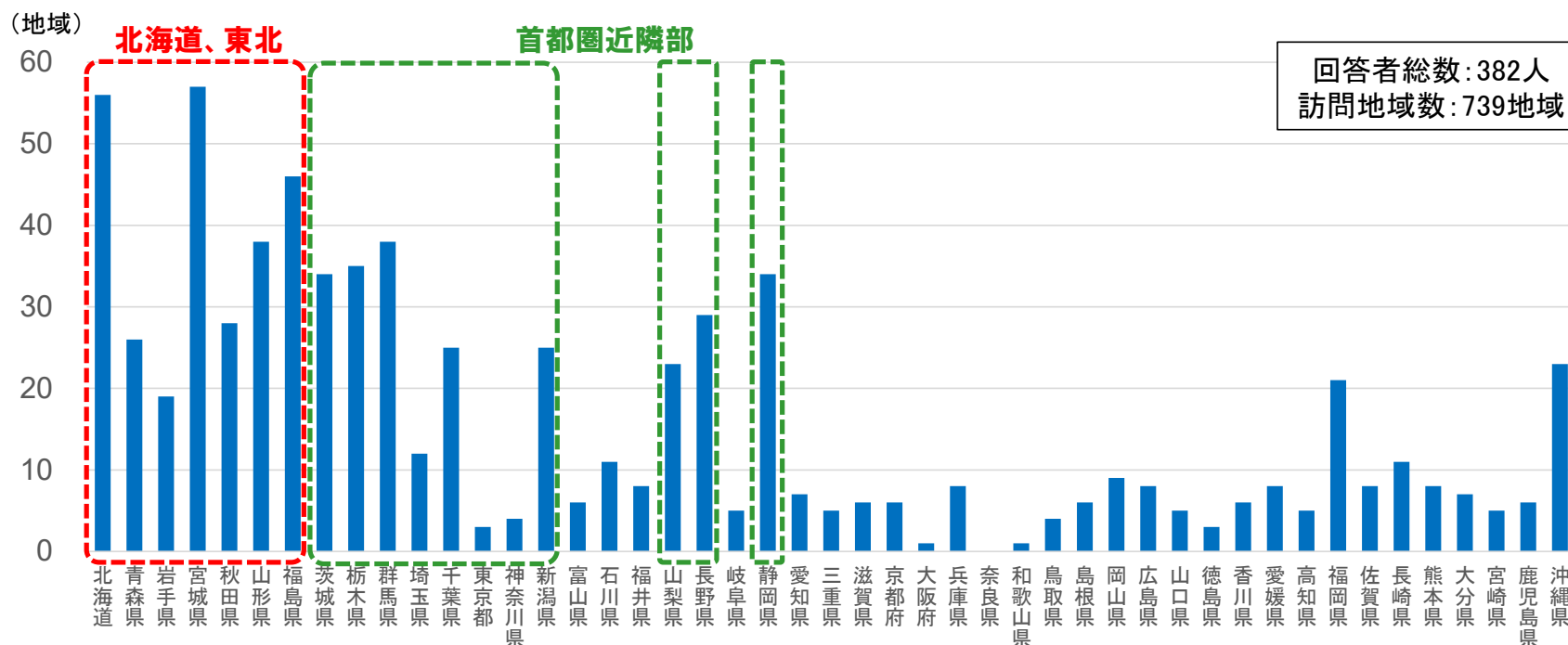
（出典）「地域との関わりについてのアンケート」（国土交通省、令和2年9月実施）、訪問地域数ベース

農業系関係人口(首都圏都市部居住)の訪問先

- 農業系関係人口(首都圏都市部居住)の訪問先は、首都圏近隣地域に加え、北海道及び東北が大きな割合を占めている。
- 一方で、西日本に対しても一定数の訪問が確認できる。

首都圏都市部に居住し、その他地域において農林水産業に関わる関係人口(訪問系)

訪問先



(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和2年9月実施)、訪問地域数ベース

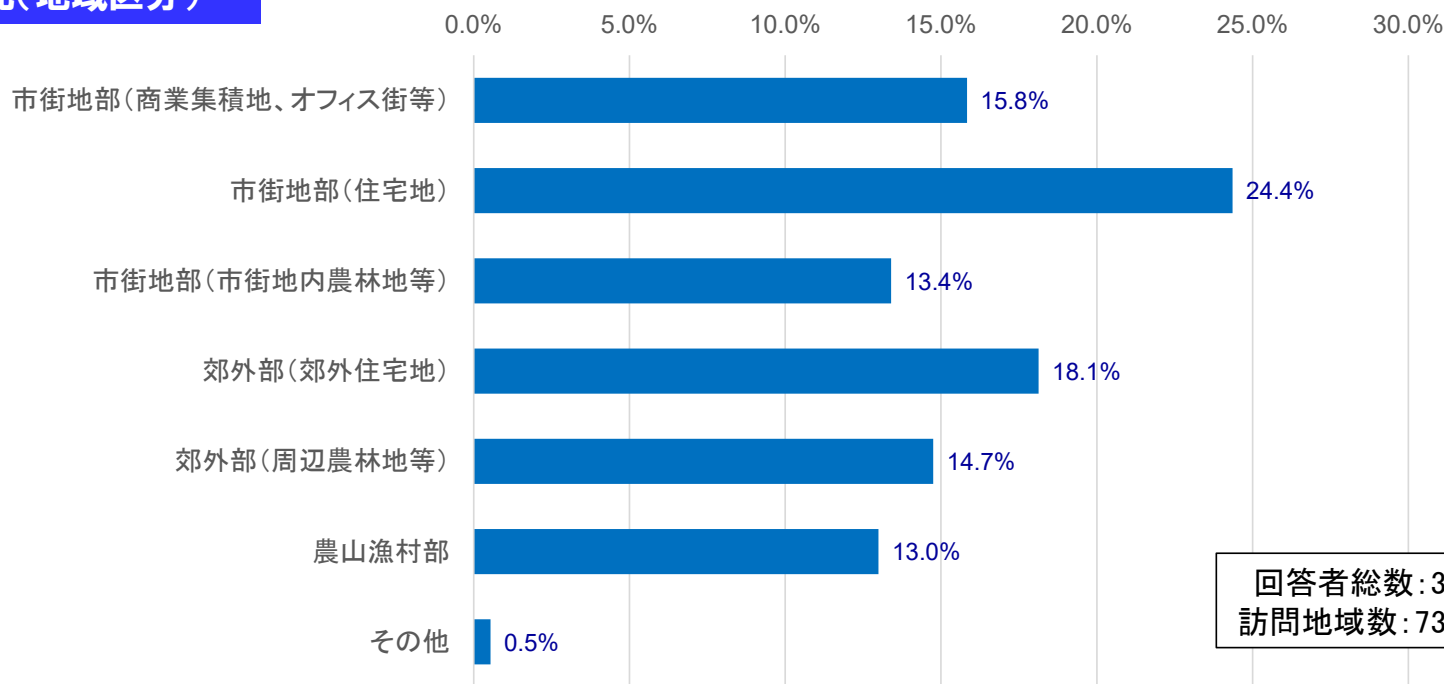
農業系関係人口(首都圏都市部居住)の訪問先(地域区分)

国土交通省

- 農業系関係人口(首都圏都市部居住)が訪問している地域区分は、市街地(住宅地)が約25%となり、一番大きな割合を占めている。
- 一方で、農山漁村部への訪問は、約13%程度である。
- 農業系関係人口(首都圏都市部居住)については、純粋な農山漁村集落部への関わりよりも、市街地及び住宅地内や郊外部への関わりが多い状況である。

首都圏都市部に居住し、その他地域において農林水産業に関わる関係人口(訪問系)

訪問先(地域区分)



回答者総数: 382人
訪問地域数: 739地域

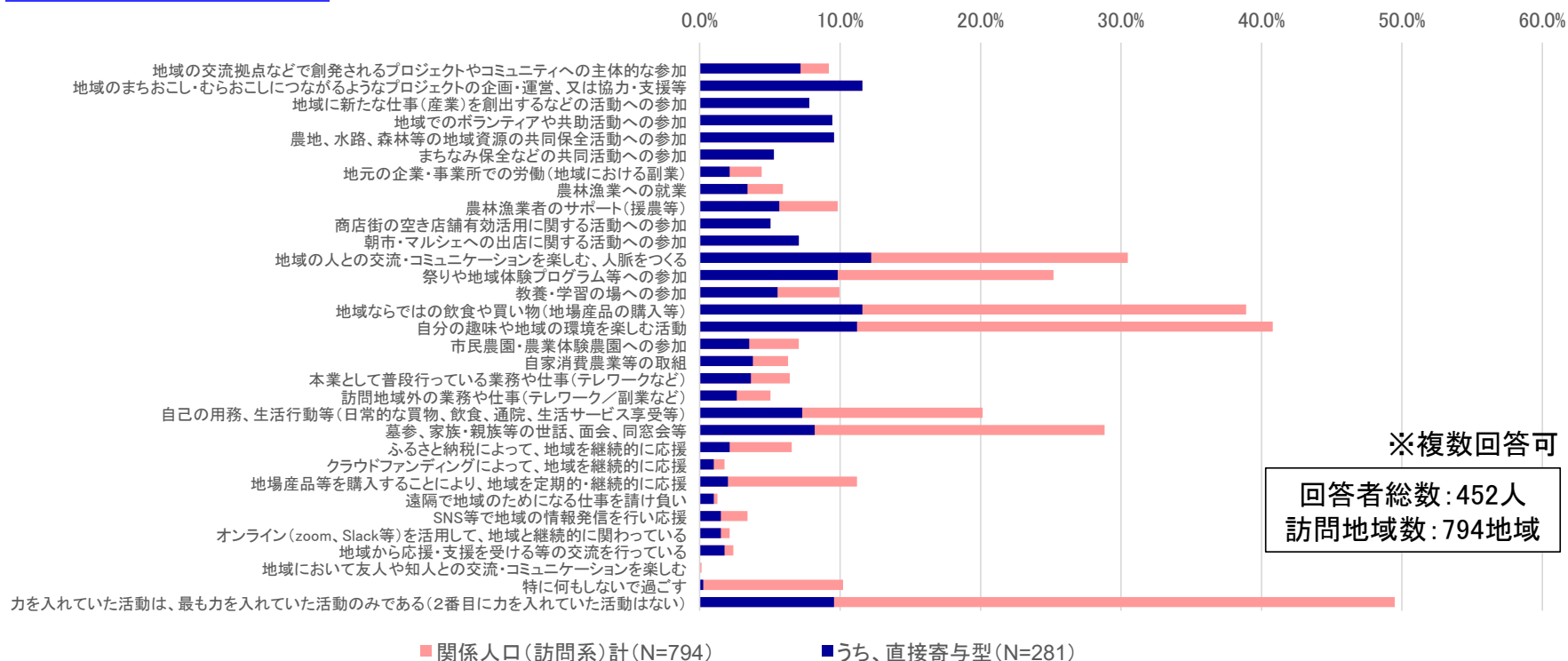
(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和2年9月実施)、訪問地域数ベース

首都圏都市部に居住し、農山漁村を訪問する関係人口の過ごし方

- 首都圏都市部に居住し、農山漁村を訪問している関係人口の地域における過ごし方については、地場産品の購入や自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動等、趣味・消費活動を行っている割合が大きい。
- また、地域の人とのコミュニケーション、人脈づくり、祭りや地域体験プログラム等への参加など、参加・交流活動を行っている人の割合も大きい。
- 農業へ関わっている人の割合は大きくない。

地域での過ごし方

■ 首都圏都市部に居住し、農山漁村に関わる関係人口(訪問系)



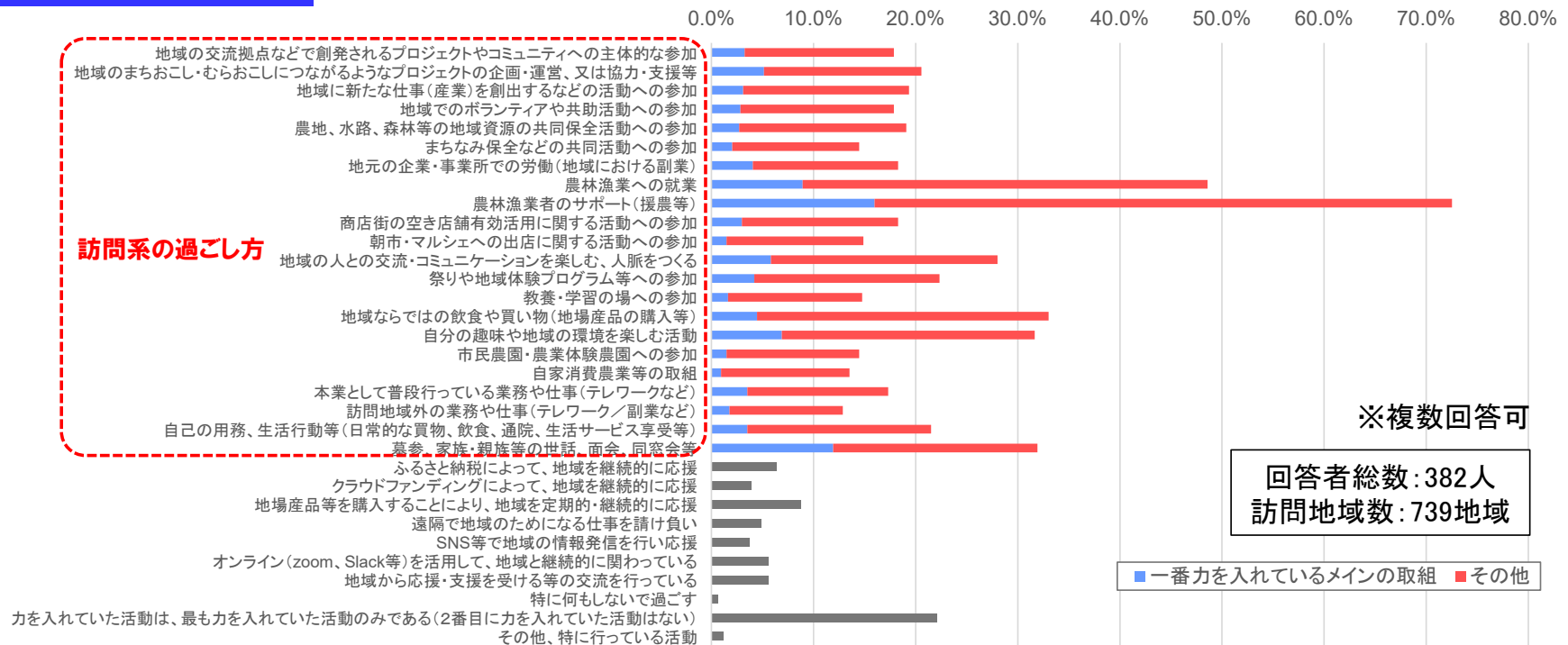
(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和2年9月実施)、訪問地域数ベース

農業系関係人口(首都圏都市部居住)の地域での過ごし方 国土交通省

- 農業系関係人口(首都圏都市部居住)の地域での過ごし方は、“農林漁業への就業”及び“農林漁業者のサポート(援農等)”を除くと、趣味・消費的な取組や“地域の人との交流・コミュニケーションを楽しむ、人脈をつくる”が比較的多いものの、その他の訪問系の過ごし方はほとんど同じ割合となっている。
- また、“農林漁業への就業”及び“農林漁業者のサポート(援農等)”を一番力を入れているメインの取組としている人は約3割程度である。
- 農林漁業への関わりは、他の取組と複合的に行われていると推測される。

地域での過ごし方

■ 首都圏都市部に居住し、その他地域において農林水産業に関わる関係人口(訪問系)



(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和2年9月実施)、訪問地域数ベース